

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本独文学会ドイツ語教育部会

(代表者 境 一 三 会員数 約620人)

T E L 03-5950-1147

1 前 文

今年度の受験者数は147名で、昨年度比24名の増加であった。これがどのような理由によるものであるのかを俄かに断定することは難しいが、ドイツ語を開設している高等学校は「高等学校ドイツ語教育研究会」の調査によれば2013年4月現在125校あり、一昨年度までの（「高等学校等における国際交流等の状況について」等に見られるように）文部科学省による調査では、数年来100校から110校の間を推移していたのに比べれば増加傾向にあることも一因かも知れない。また、センター試験におけるドイツ語の出題が高等学校のドイツ語履修状況に鑑みて、ほぼ適正と言える範囲にあり、高等学校で教鞭を取られる先生方も、ドイツ語受験を勧めやすくなっているのではないかと考えられる。（但し、「まとめ」に記したような意見があることも念頭に置いて頂ければ幸いである。）いずれにせよ、高等学校でのドイツ語履修者にとってひとつの目標となるセンター試験の適正な出題レベルの維持が望まれる。

今年度の平均点は、昨年度よりも約4点上がり155.36点（100点満点換算では約2点増で77.68点）であり、仏語より僅かに低く、中国語、韓国語よりも僅かに高い適正な範囲にあると言える。既に過去6年間にわたり、ほぼこの水準の平均点が維持してこられた問題作成部会の努力は高く評価されるべきものとする。

ただ、標準偏差は英語よりほぼ2点、英語以外のその他の外国語よりも約6点程度高い。これは、なお帰国生を含むドイツ語受験者の学習背景のバラツキの大きさを示すものであり、問題作成部会が今回の平均点を高すぎるものと判断されないようお願いしたい。

各設問内容については、今年度もおおむね適正な出題が多いが、本意見・評価も参考に加えていただきながら、来年度以降も適正な水準を維持していただけるよう望みたい。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

総語数は昨年比で約70語減っているが、重複を除く総語数は27語増えている。また、使用語いの難易度は、本評価で使用している基本語いデータベースとの照合で、文脈からでも類推の困難な語が昨年度よりも5語増えて7語あるが、いずれも許容範囲であろう。

但し、繰り返し指摘しているように、単体では基本語いでも、口語的表現としては難度の高い表現が含まれる設問もあるので、語いの難易度については今後とも検討課題としていただきたい。

設問数は、大問6題、小問総数50問で昨年と同様である。総頁数は昨年度よりも1頁増えたが、これは第6問が2頁にまたがったためである。しかし、設問数から見て、受験者の負担はほぼ変わらない。配点も昨年と同様で、適正と評価できる。

第1問 基本的な語いによる、基本的な文法問題がほとんどである。

問4 文法性を問う問題では、性を示唆する形態上の特徴などを持つ名詞か、あるいは今年度本試験のような「グループを構成する名詞」などを出題すべきであり、基本語いであっても、そのような「文法的特徴・グループとしての共通性」などと呼べるものを特に持たないものの出題は望ましくない。

第2問 第1問と同様、基本的事柄を問う問題がほとんどである。選択肢には、受験者である高校生の学習環境ではあまり出会わない難度の高い語も含まれるが、正答となる語については適正と評価できる。

問2 難度が高い。entschuldigen に比べverzeihenは教科書での出現頻度、つまりは授業で扱われる頻度も低い。Verspätungの意味や文法性は分かっても、格の判断まではできなかった可能性も高い。

問9 いわゆる話法助動詞に準ずるものとしての「知覚動詞」の用法は、一般的なドイツ語学習環境にある受験者には、かなり難度が高い。

第3問

問3 一般に向けたアナウンスのように見える日本語文に対してドイツ語文がichで始まるため、最初は戸惑う受験者もいるかも知れない。また、「人⁴ auf 事⁴ aufmerksam machen」という熟語表現も難度がかなり高い。

第4問

B

問1 正答選択肢中の gerade が「ちょうど今」という意味であるという知識はやや難度が高い。im Moment などのような表現の方が適切と思われる。

第5問

問4 会話本文の「人⁴ von 事³ überzeugen」は難度が高い表現であるが、問4の選択肢はさらに「überzeugen können, kein ... zu kaufen」が二例、「nicht überzeugen können, ... zu kaufen」が二例という形で、必要以上に複雑な構成になっている点で、良問とは言い難い。

第6問 類推もできない難語は二語程度であるが、全体に高校生受験者にとって話題にする機会が少ないテーマであり、設問も繰り返し精読する必要のある内容となっている。本試験との比較では、総合的な難度がより高い出題と言える。

問3 誤答選択肢はいずれも難易度の適正な語であるのに対し、正答選択肢 überwinden は、一般の教材ではあまり出現せず、難度の高いものと考えられる。

問9 正解のひとつとされる選択肢⑥について、本文中には、夢が記憶の整理をするという「夢のはたらき」が述べられているが、それは「Heute wissen wir ...」という文脈で述べられており、「科学が夢のはたらきを明らかにした」という明示的な記述はない。

3 ま と め

平均点からも明らかなように、今年度も難易度について配慮された出題が多く、全体として取り組みやすい出題であったことを評価したい。ただ、高等学校でドイツ語を担当している委員からは、高校が提供する一般的な第二外国語の授業（週1回100分、もしくは50分）ではセンター試験

のドイツ語は難しく、「ほぼ適正」と思われるのは、3年次だけでもドイツ語を第一外国語として学ぶことができる場合、あるいは高校に常勤のドイツ語教員が存在する場合であること、更に常勤の日本人ドイツ語教員が複数名いる高校においてすら、ドイツ語が第一外国語から第二外国語になって以来、ドイツ語受験は難しいという声が聞かれ、したがって本評価における意見は、あくまでもこのセンター試験のドイツ語に対応できる例外的環境を前提にしての所見であり、一般的な学習環境にある生徒にセンター試験受験を勧めることは難しいというのが複数の高校で教えている者としての率直な印象であるとの意見があった。

問題作題部会におかれては、センター試験がドイツ語学習者の裾野を広げるために大きな影響力を持つという認識を堅持していただき、一層高等学校でのドイツ語学習の実情に沿った「目標」としての公平性と信頼性を高める努力を払っていただくよう切にお願いしたい。